

4 市町村連携対談の概要

会議名	4市町村連携（田原本町・吉野町・明日香村・奈良市）対談
開催日時	令和2年9月12日（土）午後1時30分～午後2時30分
開催場所	ANDO HOTEL 奈良若草山 1F テラス若草山
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各都市の取組とこれからの展望について ・4都市の連携について（マイクロツーリズムの推進）
出席者	田原本町長 森 章浩 吉野町長 中井 章太 明日香村長 森川 裕一 奈良市長 仲川 げん（進行）
担当課	観光経済部観光戦略課
内容の概要	
<p>[仲川市長から、本対談を行う主旨について説明]</p> <p>【コロナ禍における各市の状況等について】</p> <p><田原本町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により開業予定が遅れたが、NIPPONIA ブランドとして、醤油蔵を70年ぶりに改築した搾り出し醤油の体験もできる「NIPPONIA 田原本マルト醤油」が田原本における1つめの宿泊施設として営業を開始された。 ・観光産業での収益がないとはいえ、3年前に開園した「道の駅 レスティ唐古・鍵」はコロナの影響で売上が相当減った。 ・道の駅に他府県ナンバーの車がいるだけでクレームがくることもあった。 <p><吉野町></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月7日の緊急事態宣言により、吉野一番の桜のピーク時の宿泊客が9割以上減となり、バス予約も相当数減った。 ・木材産業においても、現在もまだ影響が残っている。 ・このタイミングを、桜だけではなく紙漉きや製材、湖といった自然も含む地域の素材を再発見し、体験型観光をすすめていく良い機会であると捉えている。 ・町民の命を守りながら経済的なことも完備していかないと産業が続かないというところが大変苦勞している。 <p><明日香村></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験も含めた体感型、体験型観光の旅行客が多いので、このコロナ禍で一番影響を受けたのが宿泊と飲食といった観光産業である。 ・一般民家等での宿泊（ホームステイ）が伴う教育旅行については、高齢者も多い受入家庭のリスクを考慮し、今年度の受入はほぼ100%中止となっている。 <p><奈良市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一言でいうと壊滅的な状態である。昨年までの伸びに勢いがあった分、落差が計り知れないと 	

ころがある。

・これからという時にコロナが来たという影響はかなり大きく、事業展開を見直さざるを得ない事業者もでている。

⇒<奈良市>人と人のふれあいを価値にしていくような観光の形態である体験型はコロナ禍では大きく影響を受けてしまった。しかし、この状況をいかに乗り越えていくかという前向きなアイデアとエネルギーが必要であり、現場の市町村が自らの発案でアクションを起こしていくことが重要であると考えます。そこで、各市町村で観光というものをどのような方向性で目指していけばよいのか、選択していけばよいのかを続いたのテーマとして議論していきたい。

【アフターコロナも見据えた観光の方向性について】

<奈良市>

・県内の中で南北の行き来というところを豊かにしていけば、色々組めるものがあるのではないかと。

・国内に住んでいる外国人の方たちも1つの市場となりうる場合もある。

<明日香村>

・ウィズコロナの状況下でできるだけ地域のなかで行動すればいいのか、というマイクロツーリズム議論があると思う。

・県内でできるだけ足を運びあって、身近に感じるができる異なる日常「異日常」があるのではないかとと思うので、それを感じて頂けるような取組をお互いにできればと思う。

<田原本町>

・ウィズコロナの時代では新しい観光を作っていくきっかけづくりになると考えている。

・観光産業の構造変化が起こる時代が来ているので、マストツーリズムからマイクロツーリズムへ、大規模観光から小規模観光、観光バス・公共交通から自転車、周遊観光、こういう観光構造がすごく変わる時期だと思っている。

・観光産業を、関係人口を増やす施策としてすすめていきたいので、マイクロツーリズムの推進を連携して共にやっていきたい。

<吉野町>

・地域の資源を活かしていこうとする中で、歴史を紐解いていくと非常におもしろいと思う。

・それぞれの土地の持つ力というものをもう一度含めながら、何かできないかという思いがある。

【具体的な連携の方法案等について】

<田原本町>

・各市町村の歴史的な背景を見る中で世界遺産は魅力である。奈良の世界遺産ツアーを実現するのはどうか。

<明日香村>

・キラーコンテンツを各々作り、しっかりとPRする。どの時期にどこに行くべきかを用意し、時間軸にあわせて提案する。そのルートは4市町村だけではなく、県内他市町村や県にも呼び掛けて作っていくべきではないか。

・『飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群』の世界遺産登録を目指しており、その魅力も活かしていきたい。

<吉野町>

・世界遺産の中で、吉野は和歌山と三重にまたがる紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産になっている。建物、風景といった大事な街並みを残す意味でも建築は重要であり、各々広めていければ魅力あるものが出来るのではないかな。

<奈良市>

・単体としての建築物や仏像ではなく、昔のままの風景も観光商品としての光をあてることにより、キラーコンテンツになるかもしれない。

・市町村がそれぞれの資源と知恵を持ち寄り、県とも連携しながら、スモールサクセスを目指す。

【総括】

・ウィズコロナ社会における新しい観光を考える中で、地元の人に奈良の良さを知ってもらい、その良さを広く発信することが観光につながるという考えのもと、連携の中から新しい観光資源の発掘や地域の魅力を再発見し、観光の満足度を高めることが必要。

・広域連携を深め、観光のスタイルを通過型から滞在型に転換していきたい。

・県内に多数存在する史跡などを生かし、例えば世界遺産をテーマに各地域を巡るツアーの提案に向けて官民連携で企画していく。